

児童が生き生きと活動していく学習指導の工夫

ー地域素材の教材化を通してー

玉城村立百名小学校教諭 嶺 井 のぞみ

内容要約

児童が生き生きと活動していく学習指導の工夫として、地域素材の教材化を試みた。

児童の興味・関心のある教材との出会いや体験活動など、思いや願いを生かした支援の工夫をすることで、児童は新しい自分に気付いたり友達のよいところを見つけて生き生きと活動していくようになった。

【キーワード】 生き生きと活動 支援 思いや願い 地域素材 地域人材

目 次

I テーマ設定の理由	21
II 研究仮説	21
III 研究内容	22
1 生き生きと活動するとは	22
2 学習指導の工夫	22
3 地域素材	23
IV 授業実践	25
1 単元名	25
2 単元設定の理由	25
3 単元の指導目標	25
4 活動の流れ	26
5 本時の活動	28
6 考察	29
V 研究全体の考察	29
VI 研究の成果と今後の課題	30

児童が生き生きと活動していく学習指導の工夫

—地域素材の教材化を通して—

玉城村立百名小学校教諭 嶺 井 のぞみ

I テーマ設定の理由

今回の改善により、生活科の学年の目標(1)が「自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、それらに愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、適切に行動できるようにする。」となった。今までの「自分と学校、家庭、近所などの人々」の部分が「自分と身近な人々及び地域の様々な場所」と改められ、「地域の人々や場所に愛着をもつことができるようにする」ことが新たに示された。

これは、児童の生活圏である学校、家庭、地域で児童が自分と身近な人々や場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、それらに積極的に働きかけたり受容したりするなどして生き生きと学習や生活をしているなかで、自分の住む地域に愛着をもつとともに、児童が自分や友達のよさや可能性に気付いて、意欲と自信をもつことができるようになることを目指している。

生活科は児童の生活圏である身近な地域を学習の場や対象にしている。生活科の学習では、地域の環境を生かし、積極的に地域に出て行くようにするとともに、地域とのふれあいによる学習を重視している。

さて、本校児童の生活圏である玉城村は、沖縄本島の南東にあって太平洋に面し、「グスクと水の里」と呼ばれ自然に恵まれた美しい村である。校区にも、垣花樋川（垣花ヒージャー）、仲村渠樋川（仲村渠ヒージャー）、垣花城跡、新原ビーチ、各区の行事など数多くの地域素材がある。

学級の児童は体を動かすのが好きで、放課後も公園や広場で遊んでいる子が多い。しかし、核家族化、少子化、夫婦共働きの影響のため、近所の人との付き合いが希薄になってきている。休日になると、家族で村外のイベントに出かけることが多い。そのため、地域の行事を知らなかったり、参加する児童が減っている。小さい頃からそこで生活してはいるが、玉城村について漠然ととらえていて、身の回りにある様々な場所、建物が何というものなのか、どこにあるのかが分からなかったり、行事の楽しさやよさに気付かないでいる。

これまで本校の生活科の授業を見ると、児童が体験活動を喜んでしており、特に、身近な教材には生き生きと楽しく取り組んでいた。しかし、地域の特色ある素材を教材化して、年間指導計画に組み入れた単元が少ないのが現状であった。また、私自身地域素材の教材研究不足のため、児童が主体的に学習できなかったり、児童理解が不十分で、一人一人の思いや願いにあった適切な支援ができないことがあった。

そこで児童が生き生きと活動していく学習指導をしていくためには、児童の興味・関心のある教材と出合わせ、思いや願いを生かす支援の工夫を図っていくことが大切であると考えた。児童の身近にある地域素材を教材化して支援を工夫すれば、それと直接何度かかわっていくうちに、児童は自分の住む地域に愛着をもつようになり、さらに、新しい自分に気付いたり、友達のよいところを見つけたりして、生き生きと活動していくのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

地域素材を教材化して、児童の思いや願いを生かす支援の工夫をすれば、児童が生き生きと活動していくであろう。

Ⅲ 研究内容

1 生き生きと活動するとは

生き生きと活動するとは、児童がやる気いっぱい、張り切っていて、自ら考え、追求して、気付いて、表現していく活動であると捉える。

児童が生き生きと活動するためには、児童が「やってみたい」「もっと～したい」と活動への意欲をもつことが何よりも大切である。

低学年の児童は、行動と思考・判断・表現などが未分化であるため、具体的な活動や体験を通しての総合的な指導が必要である。そのため、直接対象に手を触れて働きかけ、その反応を確かめながら、さらにかかわりを深めていく楽しさや面白さを味わうことを好むという特徴がある。

したがって、児童が生き生きと活動するには、教師主導の活動のさせ方や内容の教え込みではなく、児童の自発性に視点を置いて、活動させる必要がある。

2 学習指導の工夫

(1) 思いや願いを育てる

児童が自らの興味・関心を発揮して活動や体験することを大切にする生活科の学習では、児童の活動への思いや願いをはぐくみ意欲や主体性を高めることが重要となる。そのため、教師は日頃から児童の遊びや生活の様子を観察し、児童の興味・関心の実態を確かめ、教材との出会わせ方を考え、児童の意欲や主体性を引き出す環境構成や活動への誘いかけを工夫しなくてはならない。その際、教師は一人一人の子どもを理解して共感していこうとする姿勢をもつことが求められる。

(2) 支援

児童がこれからの社会において心豊かに、主体的・創造的に生きることができる資質や能力を、自らの力によって獲得できるようにするために支えたり、助けたりすることである。一人一人の児童のよさや取り柄とすることを認め、それを伸ばしていこうとする働きかけが適切な支援となる。表1にまとめた。

表1 支援とかかわり方

支 援	か か わ り 方
ア 児童の思いや願いを受け入れる支援	*同意する *共感する *称賛する *見守る *認める *感心する *理解する
イ 児童の思いや願いを受け入れた後、教師が働きかける支援	*激励 *広げる *助言する *手助けする *共に活動する *紹介する *きっかけを作る *促す
ウ 教師の意図を伝える支援	*教える *指示する *問い掛ける
エ 児童同士をかかわらせる支援	*協力する *援助する *アドバイスする *作品やノートを見せ合う *共感する *思いや願いを大切にしたいグループを作る
オ 環境構成	*教材と出会わせる場の工夫（地域素材の活用） *表現活動の場を設定 *多様な活動が展開できる場を設定 *教室への学習カード・写真・実物の掲示 *材料・道具コーナーの設定 *ビデオや参考図書の準備 *合科的・関連的な指導を行うことによって生まれる時間的なゆとり
カ 学習形態（TT）	*教師の協力 *保護者や地域の方の授業参画（ボランティアティーチャー）

(1) 学習過程における児童の思いや願いを生かす支援の工夫

- ① 興味・関心をもたせるためのビデオ視聴（綱引き行事に参加したことがない児童を綱と出会うさせる。）【支援 オ】
- ② 綱引き行事の話、綱作り、チンク隊などの体験活動（児童がやってみたいと言った活動を体験させることで学習意欲を高める。）【支援 ア】
- ③ 学習形態（同学年の教師や地域のボランティアティーチャーの協力で、多様な児童の活動に出来る。）【支援 カ】
- ④ 他教科との合科的・関連的指導（授業の指導効果を高める。）【支援 オ】
- ⑤ ワークシートや振り返りカードの活用（気楽に感想が書けるよう配慮し、表現させる。）【支援 ア】
- ⑥ 発表会のグループ作りと児童同士の支援活動（やりたい内容が同じもの同士に分けたので、児童はやる気をもち、教え合ったり、手助けをしたりして練習する。）【支援 エ】
- ⑦ 表現方法を児童と一緒に相談（児童の意見を入れながら話し合うので、児童が意欲を持って工夫し多様になる。）【支援 イ】
- ⑧ 友達のよさを見つける場の設定（児童が友達のよさに気が付く発問や称賛をする。）【支援 ウ オ】
- ⑨ 保護者からの感想（保護者からの称賛で児童は達成感を味わい、活動への意欲を高める。また、保護者の綱引きや地域に対する思いに気付かせることができる。）【支援 カ】
- ⑩ ボランティアティーチャーへのお礼（お礼の手紙を届けたいという児童の希望でボランティアティーチャーの家を訪ねる。ボランティアティーチャーが自分達の近くに住んでいることを知り、さらに親しみをもつことができる。）【支援 ア】

3 地域素材

(1) 地域素材の教材化

地域には教材となる素材が数多くある。地域素材は、児童にとって非常に身近でかわりが深いので、児童の興味・関心を喚起して、多様な思いや願いを膨らませ、生き生きと活動することを促すことができる。児童の実態（発達段階やこれまでの体験活動など）を把握し教師の願いを組み入れ、教材化することが大切である。そこで、玉城村の百名小学校校区の主な地域素材を教材化し図1にまとめた。

(2) 教材化の視点

- ① 生活科の目標に適した内容が含まれているもの
- ② 児童の身近にあり、児童が興味・関心をもつもの
- ③ 児童が自分の生活に生かす可能性のあるもの
- ④ 児童の思いや願いを生かした活動が展開できるもの
- ⑤ 繰り返ししかかわることができるもの（無理なく行き来できる）

(3) 地域人材の活用（ボランティアティーチャー）

地域社会には、その土地に長く住んでいて古くからの土地の様子や歴史に詳しい人や、優れた技能や専門的な知識を身に付けている人などがいる。これらの人々を地域の人材として活用することにより、児童に豊かな知識や学習経験を与えることが可能となり、学習内容に一層の膨らみができる。保護者はもとより地域の人達にも学校での子育て（教育）に積極的に参加してもらい、チームティーチングを組むことで児童の思いや願いをかなえていく。

ボランティアティーチャーが子ども達に様々な知識や技能を伝授し、楽しい時間を作ってくれ、貴重な経験を語ってくれる。ボランティアティーチャーは、授業を構成するある一部の「内容」にかかわる専門家である。授業全体を構成し、その「内容」と子ども達をどのように出会うかを考え、場を組織するのは教師の仕事である。ボランティアティーチャーとの事前の打ち合わせが重要となる。

A 親慶原のやまいもナントウ

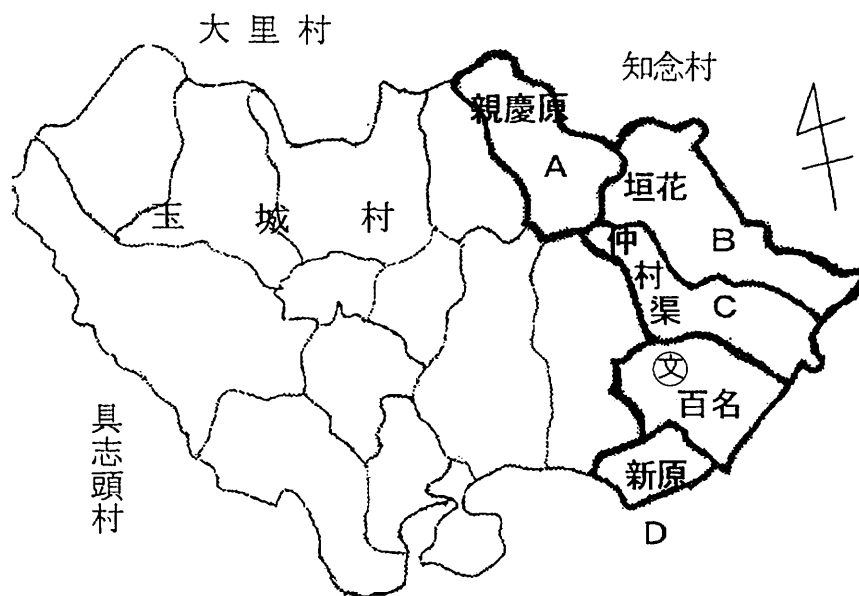
玉城村の特産品で、やまいもと小麦粉と一緒に練り込んだお菓子である。古くから各家庭では、正月や清明祭や盆にやまいもナントウを作って、仏壇にお供えしていた。季節にちなんだ行事に深いかわりのある物である。その行事に合わせてやまいもナントウ作りをして、季節の変化を自分達の生活と関連づけて考えることができる。工場のほうに、作り方のボランティアティーチャー依頼が可能。

学習指導要領 内容(5)

B 垣花花樋川（垣花ヒージャー）

環境庁の名水百選に選ばれている。石畳の道を降りていくと、林の中腹から湧き水が出ている。右から出る水を男（イキガ）川、左側の水を女（イナグ）川という。その下流の浅い水たまりが馬浴川（ウマアミシー）である。グッピーやカニがいて水遊びができる。学校から行く途中に、いろいろな虫や草花が見られる。散歩や自然体験活動を通して、季節の移り変わりを感じることができる。また、自然を利用した遊びや友達とかかわって遊びを楽しむことができる。

学習指導要領 内容(3)(5)(6)



C 仲村渠の綱引き

旧6月25日に行われる400年余り続く夜綱である。収穫感謝と次の年の豊作を祈願し、区民総出で取り組む。山原からわら2トンを購入し、50メートルの雄綱と雌綱を作る。チンク隊のリズムは独特で、門外不出であったものを明治17年首里に出向いて秘密に習ってきたものである。しかし、廃藩置県以降、首里では次第に途絶え、現在は仲村渠に残るだけとなった。自分達の住む地域にこんなにすごいものがあることを分からせ、かかわるうちに、地域に誇りや愛着をもたせることができる。綱引き行事の話をしたり、綱作りに協力したり、チンク隊の経験をさせてくれる地域ボランティアの方がいる。

学習指導要領 内容(3)(5)

D 新原ビーチ（ミーバルビーチ）

白い砂浜が2キロメートルにわたって続いている。干潮時には、遠く2キロメートル沖合まで潮が引き、遠浅になる。海自然环境や、海で見つけた物を使って遊びを工夫したりできる。また、自分なりの発想で作った物や考えた遊びをみんなに伝えたり、みんなで力を合わせると楽しくいろいろな遊びができることに気付かせることができる。学校からは少し距離があるので、保護者の車の送迎協力が必要である。

学習指導要領 内容(3)(5)(6)

図1 百名小学校校区の地域素材と地域人材の活用

IV 授業実践

1 単元名 つなひきたんけん

2 単元設定の理由

(1) 教材観

新学習指導要領の学年の目標(1)では、児童が自分と身近な人々や社会とのかかわりに関心をもって、それらと主体的にかかわり合う中で自分の住む地域に愛着をもつとともに、児童が自分のよさや可能性に気付いて、意欲や自信をもつことができるようになることを目指している。

子ども達の生活の中には、おじいさんの代から続いていたとか、なぜするのかよく分からないけど昔からやっていたという行事や習慣がある。その中から、綱引きを取り上げることにした。

綱引きは、本校校区の五つの区で毎年行われていて現在も続いている行事である。しかし、最近では人口の減少で綱を作ったり引いたりする人が少なくなり、次第に簡素化する区もでてきた。その中で仲村渠は400年余りの伝統を持ち、チンク隊の打ち方は今から117年前の明治17年に首里に出向いて習ってきたと伝えられている。

本校では、運動会の応援合戦の時に全学年で綱引きをしている。どの児童も楽しく参加して盛り上がる綱引き行事を教材として取り上げれば、児童が興味・関心をもって生き生きと活動していただろうと考えた。

また、綱引き行事の話を聞いたり、綱作りをしたり、チンク隊を経験することで、自分たちが生活する地域をより理解し、地域を愛していける子に育ててほしいという願いも含めて、本単元を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、放課後、公園や広場で遊ぶのが好きである。しかし、身の回りにある自然や史跡を知らない子が多い。また地域の行事を知らず、参加する児童が少ない。人とのかかわりも希薄になり、綱引き行事に参加したことがある児童は50%で、なぜ綱引きをするのか理由が分かっている児童はいない。

また玉城村が好きだと答えた児童は72%いるが、その理由ははっきりせず「何となく」という答えが多かった。嫌いだと答えた児童は、「公園以外に遊ぶ場所がない。不便でいや」が理由だった。

(3) 指導観

児童の思いや願いを大切に活動にするためにも地域人材を活用し、綱引き行事の話を聞いたり、綱作りをしたり、チンク隊を経験するなど、地域の人々と直接かかわる活動や体験をさせ、綱引き行事に繰り返しかかわらせたい。その中で、児童が綱引き行事に興味・関心を持ち、今後は綱引き行事など地域行事に参加する態度を育てたい。そして、地域のよさに気づき、愛着をもつようになり、自分たちが発見した地域のよさを家族に知らせるようにさせたい。

また、「振り返りカード」の活用を通して、自分のよさや友達のよさに気付かせ、意欲や自信をもたせたい。

さらに、他教科との関連を示し、合科的・関連的に扱うことで、時間的にも精神的にもゆとりを作り出し、子どもの思いや願いを生かす指導の効果を高めていきたい。

「つなひきはっぴようかい」においては、子どもたちの思いや願いを生かすために60分授業を設定することにした。

3 単元の指導目標

地域の人とのかかわりを通して、伝統行事である綱引きを体験することで、綱引きのよさに気づき自分の住む地域に興味をもつことができる。

4 活動の流れ

つなひきたんけん 12時間（生活8 国語1 図工1 特別活動1 道徳1）



思いや願い

☆支援

◎留意点

時間	学 習 活 動
1	つなひきぎょうじのことしってる ① おじいちゃんが引いているのを見たことがあるよ。 ぼくも、引いたことがあるよ。 綱引き行事の話が聞きたいなあ。 ☆地域の行事の写真やビデオを見せ、自分達の身近なところにある綱引きに興味・関心をもたせるようにする。
2 (道徳)	つなひきぎょうじのはなしをきこう ②  ☆学年TTを組み、児童の活動の多様な広がりに応えられるようにする。 ☆地域の方と事前に打ち合わせをする。 ☆「郷土の文化や生活に親しみ、愛着をもつ」と関連させて、綱引き行事に興味・関心をもち、積極的にかかわっていかこうとする態度を育てるようにする。 綱引き行事には、「お米がたくさんとれた」というお礼と、「お米が来年もたくさんとれるように」という祈りと願いをが込められているんだね。
3	ぼくがわかったことはつなは、わらでびきっていることです。ふしぎに思ったことはつなひきをしたあとにおどることです。 かっきをいっぱいしりたいです。ぼくは、かにをならしてみたいです。 ☆話を聞いて分かったことや、やってみたくなったことを絵や文で楽しく表現できるように言葉かけをする。 綱を作って引いたみたいね。 チンク隊ってどんなものかなあ。
4	つなをつくってみよう ① ☆学年TTを組み、児童の活動の多様な広がりに応えられるようにする。 ☆地域の方と事前に打ち合わせをする。 ☆綱作りの雰囲気の出る場所を設定する。 ◎地域に出るときは安全面の指導を充分行う。 ◎綱引きができる長さの綱が作れる十分な量のわらを確認する。



綱はわからずでできているんだね。

綱は力を合わせて作るんだね。

綱作りは力があるんだね。

5

チンクたいになろう ①



☆学年TTを組み、児童の活動の多様な広がりに応えられるようにする。

☆地域の方に連絡を取り事前に打ち合わせをする。

ドラがねは重たいんだね。

綱が寄ってくるときと、引くときとではリズムがちがうんだね。

6

(特活)

つなひきはっぴょうかいのそудんをしよう ①

チンク隊のことを私と一緒に発表しよう。

崎間先生のお話をまとめたいなあ。

☆「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」と関連させ、発表会について話し合い意欲をもたせるようにする。

☆やりたい内容が同じもの同士のグループになるよう、児童同士相談して決めるようにする。

☆相手に伝わりやすい表現方法を児童と相談して決めるようにする。

ペープサートでやろう。

〇×クイズがいいよ。

7
(図工)

つなひきはっぴょうかいのじゅんぴをしよう ④

昔の綱引き行事の様子が分かるような新聞にしたいな。

〇〇さんは、ペープサートを動かすのがうまいね。

8

9

おかあさんおらね

生かつのばんぎょでつなひきたんけんのはっぴょうかいをばね取はぎま先生のお話のことを〇×クイズはもようしお見にくたさい。つなひたつなてつなひきもします。

10

11

つなひきはっぴょうかいをしよう ①

早くやりたいなあ。

絵がきれいにかけているね。

昔の綱引き行事の様子がよく分かるね。



12
(国語)

おれいのがみをかこう ①

お世話になった〇〇さんにお礼が言いたいなあ。

☆「順序が分かるように文を書く」と関連させて、感謝の気持ちを込めて手紙を書かせるようにする

〇〇さんの家にお礼の手紙を届けたいなあ。

5 本時の活動

(1) 活動名 つなひきはっぴようかいをしよう

(2) 本時の指導目標

- 綱引き探検で分かったことを、元気よく生き生きと発表することができるようにする。
- 綱引き探検の発表を通して、自分や友達よさに気付くことができるようにする。

(3) 授業の仮説

調べてきた地域の綱引き行事のことを発表するとき、自分の思いや願いを取り入れた支援の工夫をすれば、児童が生き生きと表現活動をし、地域のよさ、自分や友達よさに気付くであろう。

(4) 展開

過程	活動の流れ	★支援	称賛の言葉
つかむ5分	1 めあてを確認する。 ○ つなひきのことをみんなにわかるようにしましょうかいしよう。 ○ ともだちのよかったところをみつけよう。	★めあてをつかませ、発表会への意欲を持たせるようにする。	〇〇グループの発表が楽しんだね。
発表	2 つなひきはっぴようかいをする。 (1) 始めのあいさつ (2) 発表 各グループの発表後、友達よかったところを発表する。 ・網新聞グループ 網引き行事は、みんな楽しんだんだね。	★自信をもって発表できるような雰囲気を作る。 ★聞き手の児童に、発表した児童のよかったところに気付かせるような声かけをする。 ★綱引き行事の由来、昔の綱引き行事の様子、昔の子ども達の綱引き行事とのかかわり方、百名小学校の周りの様子に目を向けて、それぞれ新聞にまとめさせるようにする。	Kさんは、文を頑張ってまとめることができたね。偉いね。
表	・網作りグループ (ペープサート) 	★網は木に引っかけて、かけ声をかけながら協力して作ること、綱作りに力が必要なことなどが伝わるようなせりふを、相談しながらいれるようにする。	Yくんは、人の絵を大きくかくことができたね。すごいね。

・チンク隊グループ (演奏)



・綱引き〇×クイズグループ (絵)



★綱を寄せるとき、綱を引くとき、綱を引き終わったとき、それぞれリズムが変わるということに関心を持たせ、練習させるようにした。

S君は、自分からチンク隊のグループを選んで入ったんだね。練習もよく頑張ったね。

★綱の材料、綱の長さ、勝負の仕方、楽器の形など体験活動の中で興味のあったことから問題を作らせるようにした。

Rさんは、クイズをよく考えて作ったね。絵も工夫されていて、おもしろい問題になったね。

(3) 綱引きをしよう

みんなで作った綱で綱引きができてうれしいなあ。



(4) 保護者からの感想

綱引き行事をこんなに詳しく調べていたことにびっくりしました。引っ越してきたのですが、玉城村にすばらしい綱引きがあることがうれしいです。これからも続けてほしいです。

地元に住んでないが、チンク隊のリズムが違っていたことに気づきませんでした。後継者がいなくなり、綱引き行事ができなくなった区も出てきています。ぜひ復活させたいです。

(5) 終わりのあいさつ

50分

まとめる

5分

3 先生の話

玉城村は、いいところだね。



★めあてをつかませ、発表会への意欲を持たせるようにする。

来年は、綱を引きたいなあ。



6 考 察

児童が生き生きと発表ができるよう、児童の思いや願いを生かしたグループ作りや表現活動を取り入れた。調べたことが相手に分かりやすく伝えられるようにしようと、児童と話し合いをして発表方法を決めた。そのため、昔の綱引き行事のことを書いた新聞、綱作りのペープサート、チンク隊演奏、綱引き行事に関する〇×クイズなどと、どのグループも工夫を凝らし多様な表現活動になった。練習の仕方に迷っている児童には、一人一人にあった支援の工夫をすることで再びやる気を見せて活動していた。喜んで作品を作り、記事や発表やクイズなどの文章を自分で考えたので、文章が自分のものになっていてすっかり覚えてしまった。そのため、発表の声が普段は小さい児童までも、本番では自信をもって元気よく生き生きと発表できた。また、振り返りカードで活動を見直したり、友達の頑張っていたことを見つけて書く欄を設け毎回記入させていたので、聞き手グループのときも集中して発表を聞き、友達のよかったところを見つけることができた。児童は、自分達で作った綱を使って綱引きをしたいと思っていたので、「綱引きをしよう」では笑顔でみんな生き生きと参加できた。

さらに、調べたことを保護者に伝えたいという児童の気持ちが盛り上がり授業参観の形をとった。保護者も一緒にクイズの解答者になったり、綱を引いたり、チンク隊になって参加したりと、場を盛り上げてくれた。児童はいつもより生き生きとした表情が見えた。児童に達成感を感じさせ、さらに活動の意欲を高めようと事前に感想を保護者へ依頼した。その保護者の発表での「豊作祈願から始まり、地域の人達で支えてきた伝統行事の綱引きをこれからも伝え続けたい」という話に、玉城村にはこんなにもいいものがあることを再認識してうなづく児童の姿が見られた。今後の児童の綱引き行事への参加意欲につながると期待している。

V 研究全体の考察

表2にあるように、単元に入る前の意識調査では「玉城村が好き」と答えた児童は72%であった。これは、自分の住んでいる地域に興味・関心をもっていなかったからであろう。しかし、児童に親しみのある綱引き行事を教材化し、出会わせたところ「綱引き行事の話を聞きたい」「綱作りをしたい」「チンク隊になって演奏したい」という思いや願いが膨らんでいった。その思いや願いを生かすため、綱とかかわる三回の体験活動を地域のボランティアティーチャーにお願いした。来年の綱引き行事との時期がずれているにもかかわらず快く協力して頂き、説明する内容も簡単に児童が分かるように配慮してもらった。児童はボランティアティーチャーとの活動に、目を輝かせ生き生きと楽しく参加した。児童は、地域の人々とかかわる活動を繰り返すなかで、綱引き行事に願いが込められており、その共通の願いが人と人との絆や協力を生む大きな要因となっていることに気付くことができた。

このように身近な地域素材（綱引き行事）を教材化した結果、今まで区の行事や伝統行事や自然のよさに気付かなかった児童が自分達の地域に興味・関心をもつようになり、単元終了後の意識調査では、「綱引き行事があるから」「海があるから」「虫がたくさんいるから」「花が咲いているから」などを理由にあげて「玉城村が好き」と答えた児童が100%になった。また、お礼の手紙（資料1）にもあるように、全員が「来年は綱引き行事を見に行き綱を引きたい」と答えた。児童は玉城村のことがよく分かるようになり地域が好きになったのであろう。

Mさんの変容

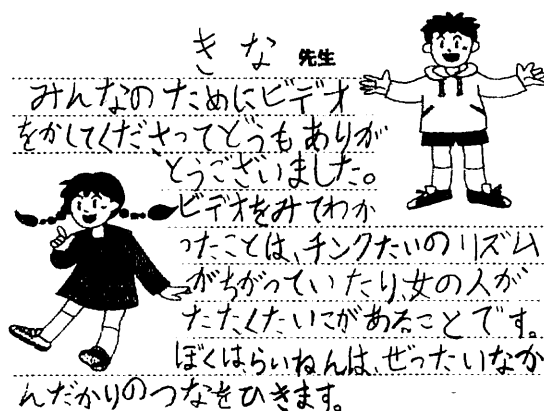
Mさんは消極的で感情をあまり出さず友達とかかわることや、思ったことを表現することが苦手だった。考えすぎて作品を書くのが遅くなり、仕上げきれず終わってしまうことが多かった。当初は、

表2 授業前と授業後の意識調査（調査人数22人）

質問事項	授業前（％）	授業後（％）
◇玉城村が好き	72	100
◇好きな理由		
何となく	75	0
綱引き行事があるから	0	100
自然がたくさんあるから （海・虫・花）	25	100

「玉城村は好き」と答えていたが理由はなかった。しかし、綱引き行事に少しずつ興味・関心を持ってきたので、ワークシートや振り返りカードを書くとき、励ましたり称賛するなど適切な支援をすると、次第に書くことを嫌がらなくなった。そして、〇×クイズのグループに自分から希望して入り「綱を引くとき、上組と下組の人数は決まっているか」という問題を作った。「いいところに目をつけて作った問題だね。」とほめると、笑顔でなお一層積極的に作品作りに取り組んでいった。本番では大きな声で元気よく問題を出し、グループの仲間同士協力して発表することができた。友達のよかったところ探しても進んで手を挙げ、自信をもって発表することができた。綱引きのときも友達と一緒に綱を引き、終始笑顔が絶えなかった（資料2）。授業後のアンケートでは、「自然がいっぱいあって綱引き行事のある玉城村が好き」と元気よく答えた。

以上のことから、身近な地域素材（綱引き行事）を教材化し、それとかかわるなかで児童の思いや願いを生かした支援を工夫することで、児童が生き生きと活動していくと考える。



資料1 お礼の手紙



資料2 みんな笑顔の綱引き

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 地域素材（綱引き行事）を教材化することで、児童が地域に愛着をもつことができた。
- (2) 地域のボランティアティーチャーの参加で、より意欲の高まった学習になった。
- (3) 地域の人々や伝統文化に対して関心をもたすことができた。
- (4) 児童の思いや願いを生かして、生き生きと活動させることができた。
- (5) 自分のよさや友達のよさに気付かせることができた。
- (6) 国語、図工、特別活動、道徳と合科的・関連的に扱ったので、ゆとりを持って指導できた。

2 今後の課題

- (1) 地域素材の教材化と、単元への位置付け
- (2) 地域人材の発掘と、地域の特色を生かした学習活動の展開
- (3) 生活科マップ、生活科暦の作成

〈主な参考文献〉

嶋野道弘著	『新小学校教育課程講座 生活』	ぎょうせい	2001年
宮原修編集	『子どもが生きる指導法を工夫する』	ぎょうせい	2000年
加藤宏次、有本昌弘編集	『地域や学校の特色に応じた総合学習』	黎明書房	2000年